

ジ-3

ネパール・デタール村住民の健康調査と歯周病罹患状況ならびに 歯周病原細菌に関する研究

福田昌代 野村慶雄 小野一男 溝部潤子 白銀千枝
高柴正悟 工藤値英子 Shiba Kumar Rai

ネパール住民の生活習慣並びに口腔環境に関する一連の調査において、今回はネパール中央部カスキ郡・デタール村住民の生活習慣を含めた健康調査、歯科検診、歯周病原細菌に関して調査し、口腔疾患と生活習慣、歯周病原細菌との関連を解析することを目的とした。調査対象はこの地域の146名とし、歯周病検診を含む歯科検診と生活習慣に関するアンケート調査を行った。うち99名（男性37名、女性62名）に対してはWHOプローブによるCPI検査、唾液潜血反応検査、歯周病原細菌の検査を行った。結果、う蝕については未処置かつ重症化したう蝕歯をもつ者が多く、一人平均う蝕本数が年代を追うごとに増加していた。また、う蝕処置をしている者が少なく、抜去している歯が多かった。歯周組織検査結果はCPI:0（健全）の者はどの年代も少なく、年齢が上がるごとに重症化している者が多かった。喫煙者の平均CPIは1.93で非喫煙者の1.69に比べ高い結果となり、喫煙と歯周病の関連性が示唆された。唾液潜血検査では、「出血あり」の者が95%であり、ブラッシング時に歯肉から出血を認める者も94.8%と多かった。歯周病原細菌検査では、歯肉炎の者に *Porphyromonas gingivalis*(Pg) 菌に対する血漿抗体価陽性の傾向が認められ、唾液潜血反応結果で「出血なし」の者にPg菌に対する陰性の傾向が示された。このことから、この地域の歯周病罹患率ならびにう蝕罹患率は高く、重症化していることが示唆された。